

池波正太郎さん宛の手紙 多数見つかる

4月20日 5時10分



ことし生誕90年を迎えた戦後を代表する作家、池波正太郎さんの自宅から司馬遼太郎さんら同じ時代の作家などから送られた手紙が100通以上見つかり、作家の幅広い交流が伺える貴重な資料として注目されています。

池波正太郎さんは時代小説の「鬼平犯科帳」や「剣客商売」など、戦後を代表する作家として人気を集め、平成2年に67歳で亡くなりました。

手紙は、去年10月、東京都内の自宅の書斎から見つかったもので、池波さんが師と仰いだ長谷川伸さんら同じ時代の作家や、俳優などから受け取った113通が残されていました。

このうち、昭和38年に親友の司馬遼太郎さんからもらった手紙には、池波さんの当時の新作について「御作やっぱりほうぼうで好評ですぜ」と独特の言い回しの褒めことばがあり、「人たらし」と言われた司馬さんの人柄や2人の親密さが伺えます。

また、池波さんが昭和35年に直木賞を受賞した直後に選考委員だった川口松太郎さんからもらった手紙では、受賞に反対意見も多かったことを明かし「反対委員を感心させるようなものを書いてください」と期待するとともに「女を書く稽古をしなさい。小説のツヤが出ない」と厳しい注文も受けていました。

手紙を取りまとめた文藝春秋の川田未穂さんは「手紙は池波さんが特に大事に残していたもので、当時は作家どうして資料を貸したり、作品を読んで励ましたりと非常に温かい交流があったことが分かります」と話しています。

この手紙の一部は、近く文芸誌に掲載されるほか、東京都内の書店でも展示されるということです。